

三重の

生きものたより

第28号



和名: オオキンカメムシ
学名: *Eucorysses grandis*

この昆虫に初めて出会ったときには、まるで熱帯のジャングルから迷い込んできたものではないかと思った。派手なオレンジ色の体にはっきりとした黒い斑紋、腹側は紫メタリックに光り輝き、しかも 2cm 以上もある大きな体をしている。普通に生息しているのであれば、これまで出会ったことがなかったのが不思議なくらいに目立ち、印象的だった。

しかし図鑑で調べてみると、三重県では普通に生息している昆虫で、ミカン類などの害虫としても知られていることが分かった。冬になると海岸近くの林に集まり、カクレミノやツバキなどの厚い葉の裏に身を寄せ合って、一本の木で数十匹程度が越冬するようだ。志摩地方でも田曾浦や大王崎周辺での集団越冬が報告されている。

これまで見つけたことがなかったのは、単に冬の林を歩いていなかったからなのだろうか。その存在を意識した途端、冬をたくましく生き抜く生きものたちの世界が少しだけ身近に見えてきた。

T.H.

志摩半島野生動物研究会